

青梅市文化財ニュース

第318号

平成26年4月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859）

黒沢川に沿って

この文化財ニュースを発行している、青梅市文化財保護指導員連絡協議会では、毎年、1月の定例会は、現地研修会を実施している。10名の委員は専門分野がそれぞれ異なるため、市内はもちろんのこと、周辺地域の状況や文化財を、共通して理解することを主な目的としている。昨年はいき野市内で、一昨年は八王子市内で研修を行った。2014年には、青梅坂から黒沢川に沿って、下流の岩蔵まで踏査した。踏査結果は『青梅市文化財保護指導員連絡協議会活動報告書』（有償で頒布予定）に掲載されるが、その一部を紹介する。

黒沢川は、鷹ノ巣山（標高405m）の南側山腹に源を発して南東方へ流れ、青梅坂付近からは向きを北東へ変え、そこから両郡橋の方向へ、曲流しながら流れ下る。幹線流路延長は約9km、約11.6km²の流域面積である。

流域の住所表示は、黒沢・小曾木・富岡で、これは明治22（1889）年までの旧村名を踏襲している。この年に三つの村が合併して西多摩郡南小曾木村になり、昭和30（1955）年4月に青梅市と合併した。

1. 旧黒沢村

『武蔵田園簿』（1648年）によると、村高は田13石余、畑180石余、計194石余で、『元禄郷帳』（1700年頃）には187余石であった。ほとんどが畑地で、水田はわずか約7%にすぎない。『新編武蔵風土記稿』（1828年頃）によると、家屋数は145軒であった。明治12（1879）年の家屋数は151軒、人口は909名で、男452名、女457名であった。平成22（2010）年の国勢調査によると、戸数は803戸、人口は1,608名である。

小字名として、黒仁田・小枕・峯・下ノケ谷戸・入谷ケ井・高指・谷・下栃谷・上栃谷・北澤・瀧ノ澤・北ノ入・古久賀・野上指^{のがみさす}・前坂・田ノ入・峯向・峯がある。

2. 旧小曾木村（南小曾木村）

『武蔵田園簿』によると、村高は田187石余、畑219石余、計337石余であった。『元禄郷帳』には367余石であった。『新編武蔵風土記稿』によると、家屋数は165軒であった。明治13（1880）年の家屋数は173軒、人口は1,006名で、男505名、女501名であった。平成22年の国勢調査による

と、戸数は624戸、人口総数は1,464名である。

ここで、困ったことが一つ発生した。それは、地名の呼称である。地元では自分たちの故郷を「おそき」と言っている。ところが、現地で行政が立てた地名表示では「おそぎ」となっている。そこで、古くから住んでおられる人たちにインタビューをしてみると、90%以上の人たちは「おそき」と答えるが、若干が「おそぎ」と言う。「おそぎ」と答える人たちに“どうして「おそぎ」ですか。”と質問すると、“そこら辺に、行政が立てた地名表示に「おそぎ」とあるから。”との返事である。どのような理由で、行政は住民を無視して地名の呼称を変えようとしているのであろうか。

類似した事は、市内の他地区でも発生している。例えば、多摩川南岸の「畑中」である。地元では自分たちの故郷を「はたけなか」と言っている。ところが、現地で行政が立てた地名表示では「はたなか」となっている。バス停も「はたなか」である。そこで、古くから住んでおられる人たちに聞いてみると、90%以上の人たちは「はたけなか」と答えるが、若干が「はたなか」と言う。「はたなか」と答える人たちに“どうして「はたなか」ですか。”と質問すると、“そこら辺に、行政が立てた地名表示やバス停に「はたなか」とあるから。”との返事である。

何かが、おかしい。

小曾木地区の小字名として、^{なかの} 笹ノ澤・^や 中ノ谷・^{ひなた} 日向・^{いわさき} 岩崎・^{ききやま} 笹山・^{あつざわ} 厚澤・^{ひぼら} 上厚澤・^{あらた} 日原・^{あらた} 荒田・^{じょうこ} 上戸・^{しもあらた} 下荒田・^{ちかむら} 千ヶ村・^{なかい} 中井・^{こむし} 羽根ヶ澤・小曾木・古武士・岩蔵・小布市・小日影がある。

3. 旧富岡村

『武蔵田園簿』によると、村高は田26石余、畑134石余、計160石余で、『元禄郷帳』には195余石とある。この村も、約84%は畑地であった。『新編武蔵風土記稿』によると、家屋数は67軒であった。明治11(1878)年の家屋数は68軒、人口は451名で、男228名、女229名であった。平成22年の国勢調査によると、戸数は764戸、人口総数は1,224名である。

小字名として、東・長澤・芋根・八ヶ下・乙黒・峯・木狐・大所・向・楠カ入・長澤入・瀧間ヶ澤がある。

なお、黒沢川流域では、昭和13(1938)年から15年間、岩蔵から七日市場を経て箱根ヶ崎まで、乗合バスが往来していた。昭和10(1935)年から東京炭鉱で亜炭の採掘が始まった。数か所に水車が稼働していた。昭和52(1977)年3月に「青梅坂トンネル」が開通した。など、報告すべきことは多い。

(文責 角田 清美)